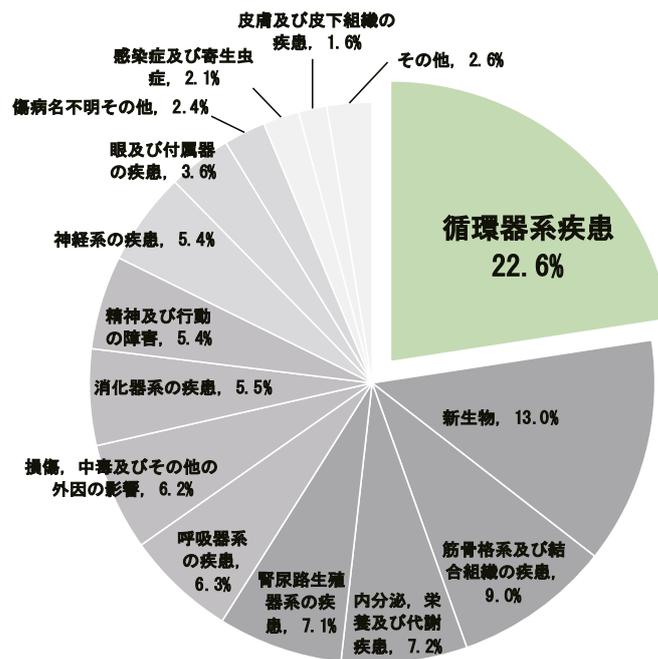


4 医療費の状況

- 疾病別都民医療費（平成 30 年度）のうち循環器系の疾患が占める割合は第 1 位であり、22.6% となっています。

医療費の構成（東京都）

疾病大分類別医療費の構成
（平成 30 年度診療分 国保+後期 医科計 東京都）



出典：医療費適正化計画関係データセット（2018年度診療分のNDBデータ）の区市町村国保・後期高齢者医療について入院・入院外を集計

区市町村国民健康保険及び後期高齢者医療の平成 30 年度分のレセプトデータを用いて、都民の疾病の状況について分析を行いました。

なお、被用者保険では、加入者の住所地別医療費データを把握していないため、分析対象には含めていません。

5 循環器病の急性期医療体制

〈脳血管疾患〉

- 都では、より一層の救命や後遺症の軽減を図るため、脳卒中発症後の患者を速やかに適切な急性期医療機関に救急搬送できる仕組みとして、都独自に「脳卒中急性期医療機関」を認定し(令和3年4月現在 164 機関、うち t-PA 療法² 実施 126 機関)、東京都脳卒中救急搬送体制を整備しています。

東京都における救急隊による救急搬送先医療機関の分類、選定基準(抜粋)

救急搬送先医療機関分類		選定基準
		搬送対象傷病者・選定方法
脳卒中医療機関	急性期の脳卒中傷病者を収容する医療機関 (1)脳卒中急性期医療機関A 脳梗塞の超急性期において適応となる血栓溶解剤 t-PA の治療が可能な医療機関	急性期の脳卒中の疑いのある傷病者 (1)発症から24時間以内 ⇒脳卒中急性期医療機関Aを選定する。
	(2)脳卒中急性期医療機関B 前記以外の脳卒中急性期医療機関	(2)発症から24時間を超える場合 ⇒脳卒中急性期医療機関Bを選定する。 ただし、周辺に該当医療機関がない場合は脳卒中急性期医療機関Aを選定する。

東京都脳卒中急性期医療機関 施設数

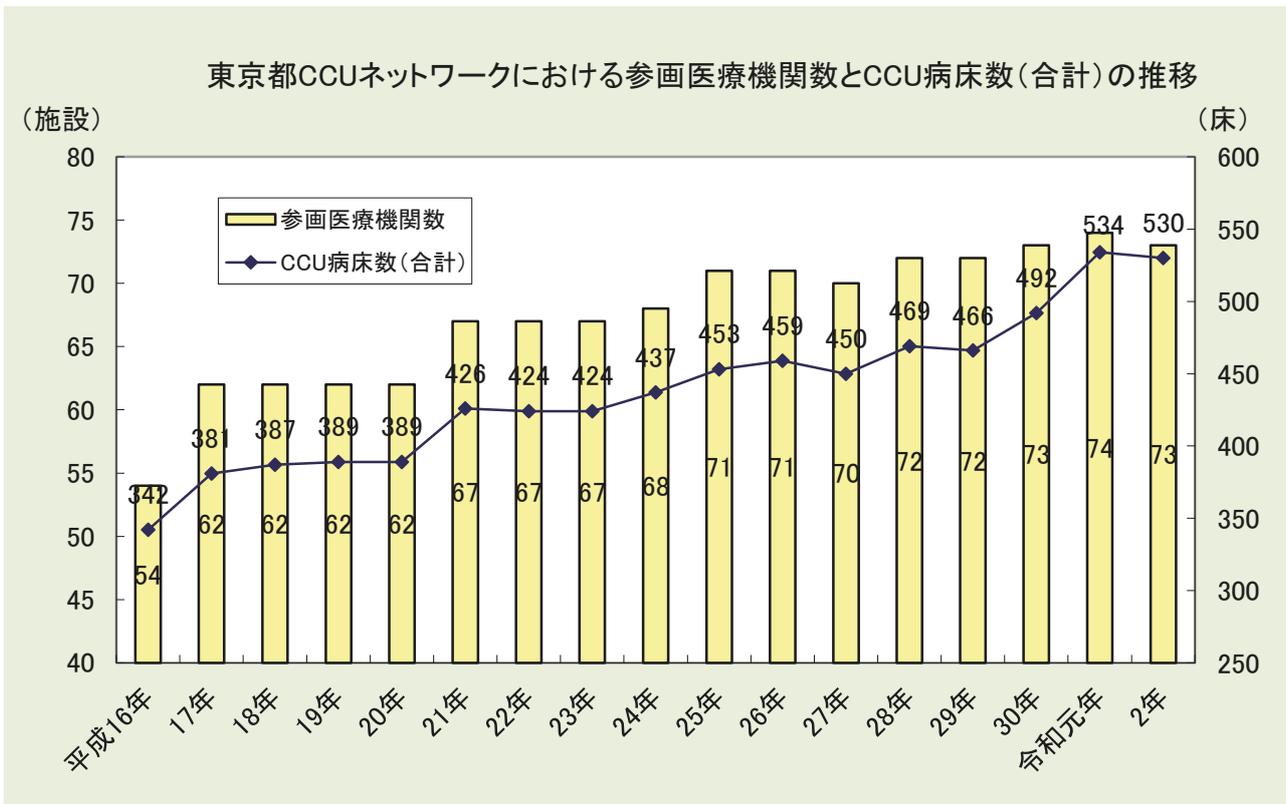
	区部	多摩	都内計
東京都脳卒中急性期医療機関	120	44	164
脳卒中急性期医療機関 A	93	33	126
脳卒中急性期医療機関 B	27	11	38

令和3年4月1日現在

² t-PA 療法：脳梗塞の発症 4.5 時間以内に開始する t-PA(組織型プラスミノゲンアクチベータ)を使用した血栓溶解療法

〈心血管疾患〉

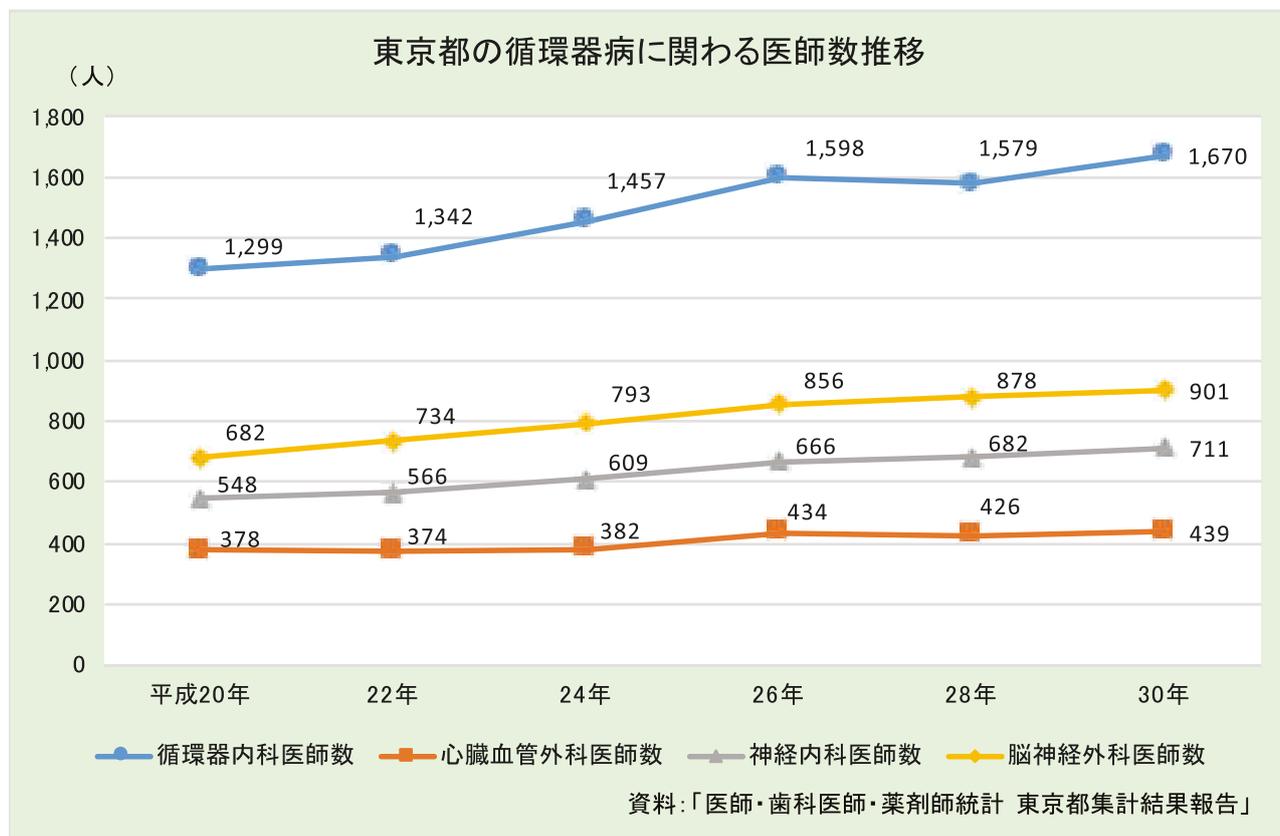
- 都では昭和54年、心血管疾患患者の迅速な専門医療施設への搬送などを目的に、東京都医師会等とともに東京都CCU³ネットワークを発足させました。令和2年12月現在、CCU病床を有する医療機関（CCU医療機関）73施設、東京都医師会、東京消防庁及び東京都福祉保健局で構成されており、参画医療機関合計で530床のCCU病床を有しています。



³ CCU: Coronary Care Unit の略。主に急性心筋梗塞等の冠状動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、厳重な監視モニター下で持続的に管理する部門のこと

6 循環器病の治療に関わる医師の状況

- 脳神経外科、神経内科、循環器内科、心臓血管外科の医師数は、増加傾向にあります。

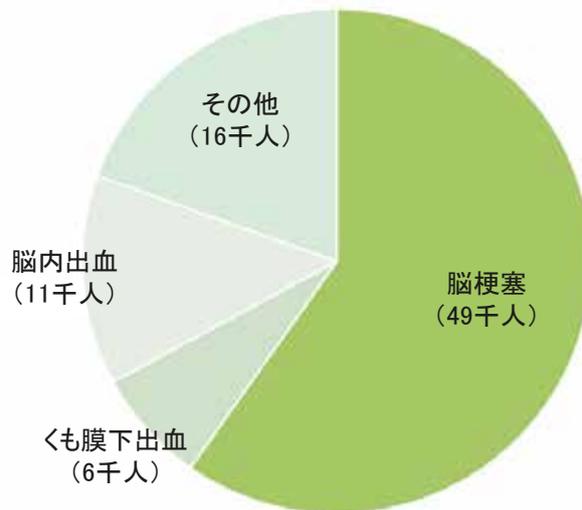


7 循環器病の患者数

〈脳血管疾患総患者数内訳〉

- 都における脳血管疾患の総患者数は約8万2千人で、そのうち脳梗塞が約4万9千人、脳内出血が約1万1千人、くも膜下出血が約6千人となっています。

東京都の脳血管疾患総患者数内訳（平成29年）

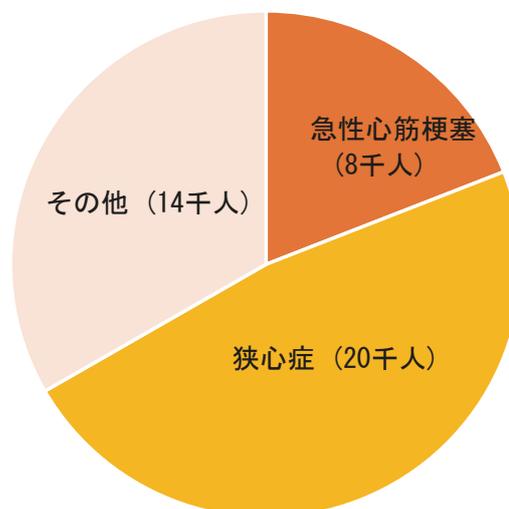


資料:「患者調査」(厚生労働省)

〈虚血性心疾患総患者数内訳〉

- 都における虚血性心疾患の総患者数は約4万2千人で、そのうち急性心筋梗塞が約8千人、狭心症が約2万人となっています。

東京都の虚血性心疾患総患者数内訳（平成29年）



資料:「患者調査」(厚生労働省)

〈患者数推移〉

① 脳血管疾患患者

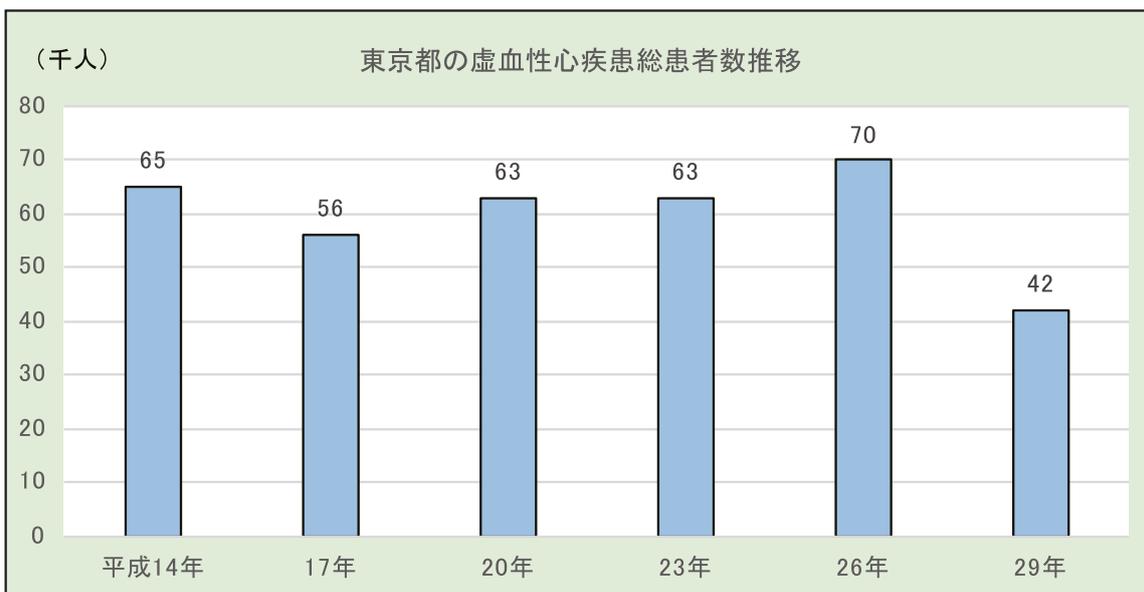
- 脳血管疾患の総患者数は、平成23年に約12万9千人となった以降減少し、平成29年には約8万2千人となっています。



資料：「患者調査」(厚生労働省)

② 虚血性心疾患患者

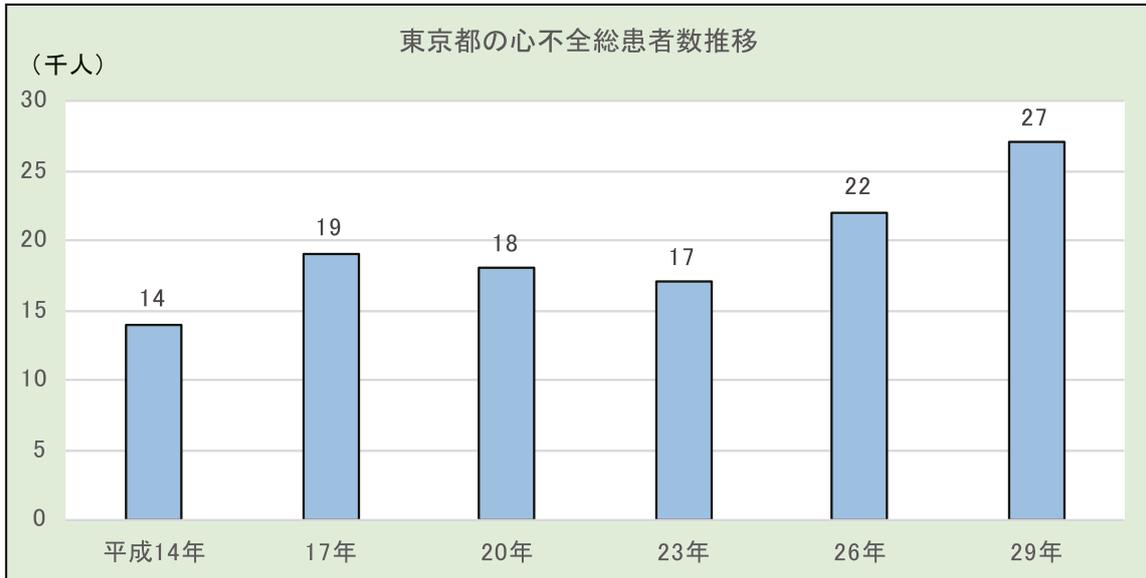
- 虚血性心疾患の総患者数は、平成26年に約7万人となりましたが、平成29年には約4万2千人となっています。



資料：「患者調査」(厚生労働省)

③ 心不全患者

- 心不全の総患者数は、平成23年以降増加しており、平成29年には約2万7千人となっています。



資料：「患者調査」(厚生労働省)

④ 大動脈瘤及び解離患者

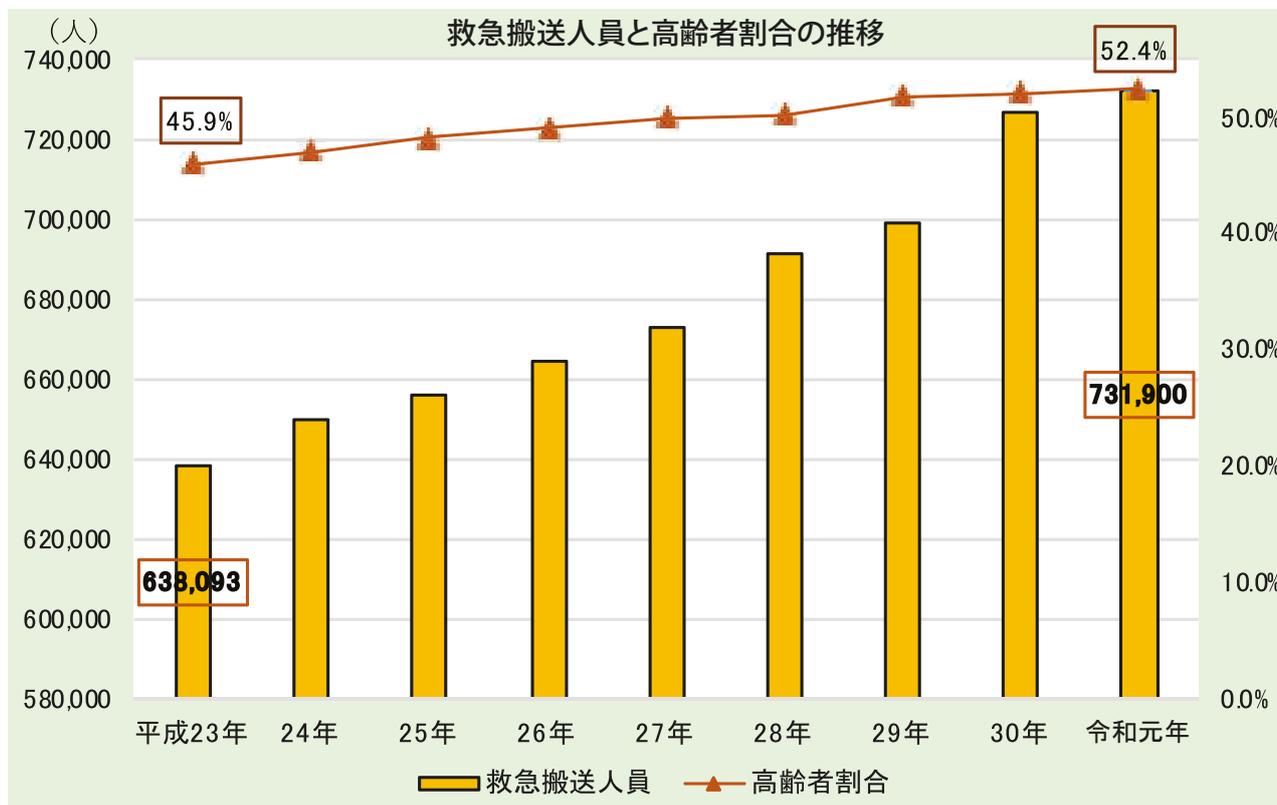
- 大動脈瘤及び解離の総患者数は、おおむね横ばいで推移しており、平成29年は約3千人となっています。



資料：「患者調査」(厚生労働省)

8 救急搬送について

- 東京消防庁管内の救急搬送人員は、令和元年においては731,900人となっています。そのうち、高齢者(65歳以上)が全体の52.4%を占めています。
- 令和元年の急病の搬送人員は490,379人であり、初診時傷病名別でみると、心・循環器疾患は26,462人、脳血管障害は22,387人となっています。



資料：救急活動の現況(東京消防庁)

急病の初診時傷病名別搬送人員(令和元年)

初診時傷病名	搬送人員	割合
消化器系疾患	40,127	8.2%
呼吸器系疾患	36,736	7.5%
心・循環器疾患	26,462	5.4%
脳血管障害	22,387	4.6%
精神系疾患	17,908	3.7%
感覚器・神経系疾患	13,792	2.8%
筋・骨格系疾患	12,890	2.6%
腎泌尿器・生殖器疾患	11,383	2.3%
新生物	4,879	1.0%
その他	23,616	4.8%
症状・徴候・診断名不明確	280,199	57.1%
合計	490,379	100.0%